

少女

サンタマリア・デリ・アンジェリ教会（ローマ）

ひっそりとした大きな教会の片隅に
石の床に跪き、低く呟いている少女は
開いた祈祷書に頭を垂れて胸に手を組んでいる

燭台に点るゆらめきの炎の傍に立ち、私は
彼女の肩に優しい手が置かれんことを祈り

神よりも優しい、人間^{ひと}という存在について想う

彼女が祈りを終えて立ち上がるその時を
そして聖堂の扉を開けて外へ歩き出すその時を
彼女を見つめたまま、私は暫く待っていた

どんな目をして人生と向き合うのだろう
祈りの中から何をつかみ取って歩き出すのだろう
何を抱き締めて扉を開けるのだろう

だが、祈りは終ることはなかった
私は立ち去らねばならなかった
振り返り、振り返り...

外へ出ると未だ小雨が降り続いていた
神よ、願わくば彼女が祈り終える時には
雲間から薄日をこぼれさせ給え

(1984.4.30)